

(2)各研修会の概要

◆令和6年度 滋賀県「学校を核とした地域力強化プラン」研修会(市町事業担当者対象)

1 趣旨 県で実施される「学校を核とした地域力強化プラン」に係る市町の事業担当者を対象に、事業の趣旨や運営上の留意点などを説明することにより、事業の円滑な実施を図る。また、地域学校協働活動とコミュニティ・スクールの一体的な推進方策についての理解を深め、普及につなげる。県全域において市町の連絡体制の構築や情報の共有を推進するとともに、設置の拡大や運営の充実にに向けた方策について情報交換する。

2 主催 滋賀県教育委員会

3 対象 (1)「学校を核とした地域力強化プラン」事業主管課の担当者

(2)各市町生涯学習・社会教育主管課担当者

(3)各市町学校教育主管課担当者

(4)学校運営協議会委員、地域学校協働活動推進員、社会教育士(講演まで)

4 日時 令和6年4月26日(金) 13:30～16:40

5 会場 滋賀県庁東館7階大会議室(大津市京町四丁目1番1号)
およびオンライン

6 内容 ○開会行事

事業説明(主な事業説明は事前に動画配信)、CSアドバイザー紹介

○講演

・演題:「CSと地域学校協働活動の質的向上のために市町行政に望むこと」

・講師:西 祐樹 氏

(文部科学省 総合教育政策局 CSマイスター、福岡県春日市議会事務局議事課 主査)

○話題提供

「野洲市事業担当者として」 田中 千春 氏(野洲市教育委員会事務局生涯学習課 主事)

○担当者交流会

7 参加者数 45名(来場26名、オンライン19名)

8 講演の概要

事業の質的向上を図るために望まれることとして①事業趣旨の理解②担当者として望まれる姿の2つの観点からについて、①全国でも行政の事業担当者が異動等により、その内容等が引き継がれないことが多い。まず、担当者として地域学校協働本部事業やコミュニティ・スクールについて正しく理解することが必要である。地域と学校の連携・協働の必要性を理解し、その解決のために事業を“自分事”としてとらえることが重要である。②市町で実際に実践されている協働活動について、視察等で理解を深め、現場で出会った人々との対話をとおして関係者とともに諸課題を解決していくプロセスが重要である。それが“当事者”としての意識を高めることにつながる。と、全国の好事例を多数紹介いただき、わかりやすく御教示いただいた。

9 話題提供・担当者交流会

(1)話題提供

野洲市は、令和5年度に市内全小中学校でコミュニティ・スクールと地域学校協働活動を同時に導入し、その円滑な実施のために、CSディレクターを配置されたことや協働活動ニュースペーパーの作成等の取組を紹介された。“みんなが楽しむ地域学校協働活動”を一貫して発信したこと等、担当者としての思いも伝えられた。

(2)担当者交流会

会場4グループ、オンライン2グループの小グループで“みつめなおして よりよく”をテーマに、各市町の実施状況や取組の重点の交流や事業の質的向上のための意見交換を行った。

10 参加者のアンケートより

○生涯学習という視点に立ち、この地域力強化プランに取り組むことが行政の立場からはとても大事に思った。「地域力強化」とは、地域の教育力を高めることであり、地域の活性化であることを心において職務にあたりたい。

○もっと学校にも訪問しようと思いました。”原点回帰”の言葉が一番印象に残った。



【講演】



【話題提供】

◆令和6年度 滋賀県「学校を核とした地域力強化プラン」研修会(みつめなおして、よりよく①)

- 1 趣旨 コミュニティ・スクールおよび地域学校協働活動を導入・推進する市町・学校の事業担当者や地域学校協働活動推進員等を対象に、今年度の事業における「みつめなおして、よりよく」の趣旨や運営上の留意点などを説明するとともに、具体的な体制整備に向けた手立てを学ぶ機会とする。また、コミュニティ・スクール推進における質的向上、ならびに地域学校協働活動との一体的な推進の方策について理解を深め、普及につなげる。
- 2 主催 滋賀県教育委員会
- 3 対象
 - ・各市町「学校を核とした強化プラン」担当者(導入予定の市町も含む)
 - ・各校園学校運営協議会委員
 - ・地域学校協働活動関係者(推進員、学習支援員、ボランティア等)
 - ・県および市町の社会教育委員
 - ・社会教育士
- 4 日時 令和6年6月4日(火)13:30～16:30
- 5 会場 滋賀県庁 東館7階 大会議室およびオンライン
- 6 内容
 - (1)開会行事・行政説明
 - (2)講 演
 - 演題:「コミュニティ・スクールの導入から運営まで ～みつめなおして、よりよく～」
 - 講師:西 孝一郎 氏(ひいらぎこども園保育士・京都教育大学非常勤講師・大阪成蹊大学大学院非常勤講師、元文部科学省CSマイスター)
 - (3)グループ討議・全体交流
 - (4)閉会行事
- 7 参加者 54名(来場26名、オンライン28名)
- 8 研修会の概要(講演・グループ討議)

(1)講演

コミュニティ・スクールの目的や学校支援ボランティアから地域学校協働活動へと発展させる際に「どんな子どもに育てたいのか」を共有することなど、コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進に向けた方策について御教示いただいた。

両者の一体的推進をすすめるにあたり、大切なことは学校・地域で子どもたちをどう育てたいのかを念頭に置くことである。学校運営協議会での熟議では、「子どもを育てる」ためのポジティブな視点でのテーマ設定や発想を前面に出し、当事者意識を持って、学校・子どもをめぐる教育課題にみんなで取り組めるように進めたい。



(2)グループ討議

『〇〇な子どもを育てるために』の〇〇にあてはまる言葉やキーワードを考え、ポジティブに子どもや学校・地域について考える時間とした。グループ討議で出た意見を書き込んだり、付箋を貼り付けたりして、それぞれの立場からの意見や考えを活発に交流していた。講師から、前向きなテーマで子どものために何ができるかを話す、熟議の雰囲気が出ていてとても充実していたと講評いただいた。

9 参加者のアンケートより

- ・コミュニティ・スクールの方向性の確認ができ、反省点や見直しにもつながった。「承認」ひとつにしても、何気なくしていることを具体的に教えていただき、参考になった。
- ・他市町の様々な立場の方と交流することができてよかった。話に力が入りすぎてまとめる時間が少なくなったが、この研修をとおして「続けることのできるコミュニティ・スクールの仕組みづくり」が大切だと感じた。今後、よりよいコミュニティ・スクール、学校運営協議会となるよう、他市町の取組も参考にしたい。



◆令和6年度 県立学校コミュニティ・スクール推進事業研修会(みつめなおして、よりよく②)

1 趣旨 学校と地域が一体となって子どもを育む「地域とともにある学校づくり」の実現に向けて、県立学校のコミュニティ・スクール(学校運営協議会制度)を価値あるものへと導くための方策を講演や熟議体験を通して学び、コミュニティ・スクールの円滑かつ効果的な導入や取組の充実に資することを目的とする。

2 主催 滋賀県教育委員会

3 対象 (1) 県立学校(中学校・高等学校・特別支援学校)教職員
(2) 「学校を核とした地域力強化プラン」事業担当者
(3) 市町立校舎教職員
(4) 学校運営協議会関係者、学校評議員 等
(5) 県および市町の社会教育委員
(6) 社会教育士
(7) 「地域連携担当者」等新任研修受講者(選択研修)

4 日時 令和6年7月2日(火)13:30~16:30

5 会場 滋賀県庁 東館7階 大会議室

6 内容 (1) 話題提供…県立学校地域協働モデル事業について(県生涯学習課)

(2) 講演(オンライン講演)

・演題:「県立学校のコミュニティ・スクール ~価値あるものへ~」

・講師:菅野 祐太 氏(認定NPO法人カタリバ ディレクター、兵庫教育大学大学院 准教授)

(3) ワークショップ

テーマ:「学校運営協議会の進め方 ~熟議に学ぶ~」

7 参加者 参加者 113 名(会場 44 名、オンライン 69 名)

8 話題提供・講演・ワークショップについて

(1) 話題提供

県立学校に地域コーディネーター(地域学校協働活動推進員)を配置し、幅広い地域住民等の参画、地域と学校の連携・協働体制を構築し、子どもたちを支え、魅力的な学校づくりと地域の活性化につなげる取組をモデル的に進める「県立学校地域協働モデル事業」について紹介しました。

(2) 講演

コミュニティ・スクール(学校運営協議会制度)の経緯を踏まえ、その概念をソーシャル・キャピタル志向とスクール・ガバナンス志向に整理いただき、その両面を統合してコミュニティ・スクールを進めていく視点について御教示いただくことで、参加者の理解を深めていただいた。

(3) ワークショップ

熟議のロールプレイを行った。“答えのない問い”に対して多様な立場の関係者が、心理的安全性を確保したうえで対話の重要性を実感する良い機会となった。

9 参加者のアンケートより

- ・“CSには正解はない”という言葉が印象的です。学校にとって、子どもたちにとって何が必要か、何をみんなで作っていききたいか、改めて考えていきたいと思った。
- ・コミュニティ・スクールを運営していく上で大切なことは、まずは関心をもって自分事として捉えてもらうことだと感じた。また、「関係の質」が良い対話のサイクルを生むということもわかった。学んだことをいかしてより良いコミュニティ・スクールにしていきたいと思う。
- ・熟議体験、とても楽しく取り組みました。自分とは異なる立場の方々との“なりきった”やりとり。心理的安全性のもと生き生きコミュニケーションできた。こんな前向きなやり取りは、とても実りがあると感じました。
- ・心理的安全性を確保されたグループだった。各々が互いをリスペクトしている中で、熟議することの大切さを学んだ。



◆令和6年度 滋賀県「学校を核とした地域力強化プラン」研修会(みつめなおして、よりよく③)

- 1 趣旨 将来を担う子どもたちの教育を支えるため、幅広い層の地域住民や企業・団体等の参画により地域学校協働活動が推進されることが期待されている。また、コミュニティ・スクールの導入も広がりを見せる近年、コミュニティ・スクールと地域学校協働活動について、「みつめなおして、よりよく」していく必要がある。今回、CSと地域学校協働活動の一体的推進の方策についての理解を深めるとともに、これからの地域と学校の在り方について学びを深め、活動の質的向上、一層の推進につなげる。
- 2 主催 滋賀県教育委員会
- 3 対象 (1) 各市町「学校を核とした地域力強化プラン」事業担当者
(2) 各校園学校運営協議会関係者
(3) 地域学校協働活動関係者(地域学校協働推進員、学習支援員、ボランティア等)
(4) 公立園・小・中・高等学校、特別支援学校教職員
(5) 県および市町の社会教育委員
(6) 社会教育士
- 4 日時 令和6年10月10日(木) 13:30～16:45
- 5 会場 滋賀県庁新館7階 大会議室(大津市京町四丁目1番1号)およびオンライン
- 6 内容 (1) パネルディスカッション
・テーマ : 「CSと地域学校協働活動 ～魅力の再発見から明日の活動へ～」
・パネリスト: 安田 隆人 氏(岡山県教育庁生涯学習課 地域学校協働活動アドバイザー)
柴原 力 氏(草津市立松原中学校 校長)
山元 尚美 氏(湖南市立石部南小学校 地域学校協働活動推進員)
- (2) ワークショップ
・テーマ : 「私たちの活動の魅力 活動の“原点”はどこにある？」
- 7 参加者数 100名(来場63名、オンライン37名)

8 研修会の概要

パネルディスカッションでは、「学校における働き方改革」、「地域との連携・人材」、「持続可能な活動」の3つのテーマで安田氏、柴原氏、山元氏に話題提供をしていただいた。

柴原氏からは、地域コーディネーター(地域学校協働活動推進員)を中心として、地域の方に活動に入り込んでいただいていること、また、地域へ学校が出向いていくという「もちつもたれつ」の関係性などを紹介いただいた。山元氏からは、ボランティアの間で「何のためにボランティア活動をしているのか」の共通理解を毎年確認することが大切であるとお話いただき、安田氏からは「学校における働き方改革」をテーマに、学校外のアイデアや考えを取り入れることが効果的であり、保護者・地域住民が参画して共有の目標をもち、対話を重ねながら協働して学校の課題解決や地域づくりを実現する、令和型の学校へシフトすることが大切であるとお話いただいた。

ワークショップでは、3～5人のグループに分かれ、ウェビングマップを用いたワークを行いました。参加者自身の取り組んでいる地域学校協働活動についてみつめなおしていただき、協働活動の意義や目的について、改めて考えるきっかけになった。

9 参加者のアンケートより

- ・様々な立場の方が語ることで、子どもを地域とともに育てるという意義を学ぶことができた。
- ・人材を探すこと、持続可能な方法、働き方改革のつながりなど、3観点で知りたいと思っていたことがよく分かった。
- ・学校で地域の人々の思いを伝えていくことが大切だと思う。CSには大きな可能性があると思う。より充実させていきたい。



◆令和6年度滋賀県「学校を核とした地域力強化プラン事業」成果報告会

- 1 趣旨** 標記事業に関わる関係者、学校教職員、行政職員等が一堂に会し、各市町における取組事例の発表や「地域とともにある学校づくり」に関する情報交換を通じて、地域学校協働活動のさらなる展開やコミュニティ・スクールとの一体的な推進に向けて、今後も「みつめなおして、よりよく」していくための方策や地域と学校の在り方について、ともに学ぶ機会とする。
- 2 主催** 滋賀県教育委員会
- 3 対象** (1) 地域学校協働活動 関係者
(推進員、地域コーディネーター、地域学校協働活動リーダー、ボランティア等)
(2) 学校運営協議会(コミュニティ・スクール) 関係者(協議会委員等)
(3) 家庭教育支援員、家庭教育関係者、子育て支援関係者
(4) 各市町「学校を核とした地域力強化プラン」関係者(行政担当者等)
(5) 公立幼稚園・小・中学校教職員、県立高等学校・特別支援学校教職員
(6) 県および市町の社会教育委員
(7) 社会教育士
- 4 日時** 令和7年(2025年)1月17日(金)13:30~16:30
- 5 会場** 滋賀県庁東館7階 大会議室
- 6 内容** ・事例報告
① 栗東市立栗東中学校 栗東中学校地域学校協働本部
「学校、地域の人々の思いと努力をつなぐ持続可能な取り組みを求めて
『栗中サポーターズクラブ』の活動」
栗東中学校校長 住吉 由加 氏、
栗東中学校学校運営協議会委員 栗中サポーターズクラブ代表 吉永 義則 氏
② 甲良町立甲良西小学校 甲良西小学校地域学校協働本部
「学校運営協議会と地域学校協働本部との連携・協働による
『子どもの主体的な学び』と『地域のつながり』について」
甲良西小学校校長 寺田 喜生 氏
甲良西小学校地域学校協働活動推進員 小島 つや子 氏
・情報交換会
・講評・全体総括
「学校を核とした地域力強化プラン」に係る推進協議会 座長 伊藤 照男 氏(滋賀県CSアドバイザー)



7 参加者数 111名(来場61名、オンライン50名)

8 報告・意見交流・講評の概要

栗東中学校では、生徒支援ならびに文部科学省の「学校支援地域本部事業」の指定を受けたことを背景に、栗中サポーターズクラブが設立された。また約20社からの企業支援である栗東ブースターズクラブを含め、学習環境や環境整備支援、学校行事支援などを、栗東中学校地域学校協働活動と併せて、コミュニティ・スクールとの一体的推進を行えるよう組織体制を構築している。エコロジー委員会での野菜栽培や起業体験、校長と地域コーディネーターによる通信発行など、学校と地域をつなぎ、持続可能な取組に向けた活動を展開している。

甲良西小学校では、子どもの願いや発想を重視し、地域ボランティアの協力を得て様々な取組やサポートを行っている。全校遠足や地域での見守りで、児童・地域双方に「見たことがある顔」を一人でも多く作る関わり方や、コミュニティ・スクールだよりの発行や学校での取組を町議会だよりの新聞記事に掲載してもらい、地域内外に広く周知できる工夫を展開している。



9 参加者のアンケートより

- ・事例報告いただいた内容が、自校の活動と重なることが多く、比較して足りない点に気づくことができた。支援から協働へ、活動を変化(向上)させていく方法を、今後も考えていきたい。
- ・「子どもは卒業しても、親(地域)は卒業しない」という言葉が、印象的だった。また、子どもの思いや願いを学校運営協議会や地域学校協働活動に結びつけてこそ、一体感が生まれるのだと感じた。
- ・情報交換会では、いろいろな立場の方々と共通した内容について幅広く話すことができた。地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員など、キーパーソンやその役割がいかに重要なものであるということを感じた。

◆「地域における家庭教育支援基盤構築事業」にかかる研修会

核家族化、地域のつながりの希薄化、コロナ禍等、家庭を取り巻く環境が大きく変わり、子育ての悩みや不安を抱えた家庭の増加等、家庭教育を行う上での困難な状況が指摘されている。また、様々な課題を抱えつつ、地域から孤立し、自ら相談の場にアクセスすることが困難な家庭等、支援が届きにくい家庭への対応や児童虐待等、子どもをめぐる状況が懸念される中、本県においては家庭の実情に応じ、多様な人材による家庭教育支援活動が展開されている。

そこで、各地域で家庭教育支援活動に取り組む関係者等が集まり、家庭教育支援活動の現状や推進方策等について学び、情報交換や情報共有することで、県内家庭教育支援活動のさらなる充実を図るために本研修会・交流会を実施した。

- 3回シリーズとして実施。1回目は家庭教育支援の基礎を学ぶ機会に、2回目は、専門的なスキルアップを目指す機会に、3回目は県内の取組事例を知り自分たちに活かす機会とする。
- 受講対象者を広げるとともに、参加者も家庭教育関係者をはじめ、子ども食堂関係者やフリースクール関係者等も幅広く参加いただき、滋賀県内の家庭教育支援のつながりをつくる機会にもなっている。

1. 家庭教育支援基礎研修会(家庭教育支援の基礎を学ぶ機会)

日 時 令和6年6月20日(木) 14:00~16:45 参加者数:68名
会 場 滋賀県庁東館7階大会議室(オンライン参加も可)
内 容 ○情報提供「滋賀県の家庭教育支援の取組について」
滋賀県教育委員会事務局生涯学習課
○講演:「今、なぜ家庭教育支援? ~つながることの大切さ~」
講師: 上田 さとみ氏 (湯浅町教育委員会スクールソーシャルワーカー
湯浅町家庭教育支援チーム「とらいあんぐる」リーダー)
○グループ別情報交換

2. 家庭教育支援専門研修会(専門的なスキルアップを目指す機会)

日 時 令和6年9月12日(木) 13:30~16:30 参加者数:56名
会 場 滋賀県庁東館7階大会議室(オンライン参加も可)
内 容 ○講演:「配慮を要する家庭への寄り添いと支援~つながりの大切さ~」
講師: 新崎 国広氏 (一般社団法人ボランティアセンター支援機構 おおさか 代表理事
ふくしと教育の実践研究所 SOLA(Social-Labo) 主宰)
○グループ別協議: 配慮を要する家庭への対応について

3. 家庭教育支援実践交流会(県内の取組事例を知り自分たちに活かす機会)

日 時 令和7年1月23日(木) 13:30~16:30 参加者数:48名
会 場 滋賀県立男女共同参画センター 大ホール
内 容 ○実践事例発表
『効果的な事業展開 ~竜王町の取組~』
竜王町教育委員会事務局生涯学習課生涯学習係 係長 田邊 正俊 氏
竜王町教育委員会事務局学校教育課 スクールソーシャルワーカー 岨中 庸子 氏
竜王町家庭教育支援員 鎌田 とみ子 氏
○助言: 上村 文子 氏 (滋賀県スクールソーシャルワーク スーパーバイザー・家庭教育支援アドバイザー)
○情報交換: 「家庭教育支援活動の成果と課題」・「来年度に向けて」等

※令和6年度参加者合計:172名

《全3回の参加対象者》

国庫補助事業実施および実施検討市町担当者、学校関係者、家庭教育支援員、家庭教育支援チーム関係者
家庭教育支援員として活動を目指す方、地域学校協働活動関係者、各市町教育委員会家庭教育担当者、
各市町教育委員会教育相談担当者、各市町児童福祉主管課 子育て支援担当者、民生委員・児童委員、
子育てサポーター、子ども家庭相談員、スクールソーシャルワーカー、子ども食堂関係者、
フリースクール関係者等、県および市町の社会教育委員、社会教育主事、社会教育士等